

# 北海道子どもの生活実態調査結果報告書【概要版】

## I. 調査の概要

### 1 目的

子どもの貧困対策を効果的に推進するため、世帯の経済状況と子どもの生活環境や学校・家庭での過ごし方などとの関係を具体的に把握することを目的とする。

### 2 調査対象及び調査方法

- 小学校2年生、小学校5年生、中学校2年生、高校2年生の保護者
- 小学校5年生、中学校2年生、高校2年生の子ども
- 平成28年10月～11月に無記名のアンケート方式で実施

### 3 実施地域

道 央			道 南	道 北	オホーツク	十 勝	釧路・根室
空知・石狩	後 志	胆振・日高					
三笠市 滝川市	岩内町 蘭越町	登別市 浦河町	北斗市	稚内市 旭川市	網走市	幕別町 清水町	釧路市

### 4 調査票の回収状況

調査対象		配付件数 (件)	有効回答数 (件)	有効回答率 (%)	マッチング数 (件)	マッチング率 (%)
小学2年生	保護者	2,755	2,261	82.1	—	—
小学5年生	保護者	2,759	2,180	79.0	2,155	98.6
	子ども	2,759	2,186	79.2		
中学2年生	保護者	2,988	2,148	71.9	2,122	98.7
	子ども	2,988	2,151	72.0		
高校2年生	保護者	2,440	1,852	75.9	1,754	93.1
	子ども	2,440	1,882	77.1		
合 計	保護者	10,942	8,441	77.1	6,031	97.0
	子ども	8,187	6,219	76.0		

(注) 本報告書において、「マッチング数」とは、「保護者の調査票」と「子どもの調査票」について、同一世帯の情報として集計が可能となった数をいい、「マッチング率」とは、子どもの有効回答数を母数として、マッチング数を除いた割合をいう。

### 5 集計方法等

- 結果数値(%)は小数第2位を四捨五入して表示しているため、内数の計が合計に一致しない場合がある。
- 集計上、未記入等不明分を除いた回収数を記載している。
- 一部の項目については、マッチング数に基づき集計しているため、学年別に全体を集計した表の合計値と、家族形態別・年収階層別の表の合計値が一致しないものがある。
- 複数回答の項目における割合(%)については、対象回答者数を分母として集計している。
- 平成5年の調査結果との比較において、同年の調査は札幌市分を含んでいるため、今回の調査結果との比較が可能となるよう、同年の調査結果の表から札幌市の値を除いている。

## II. 調査結果

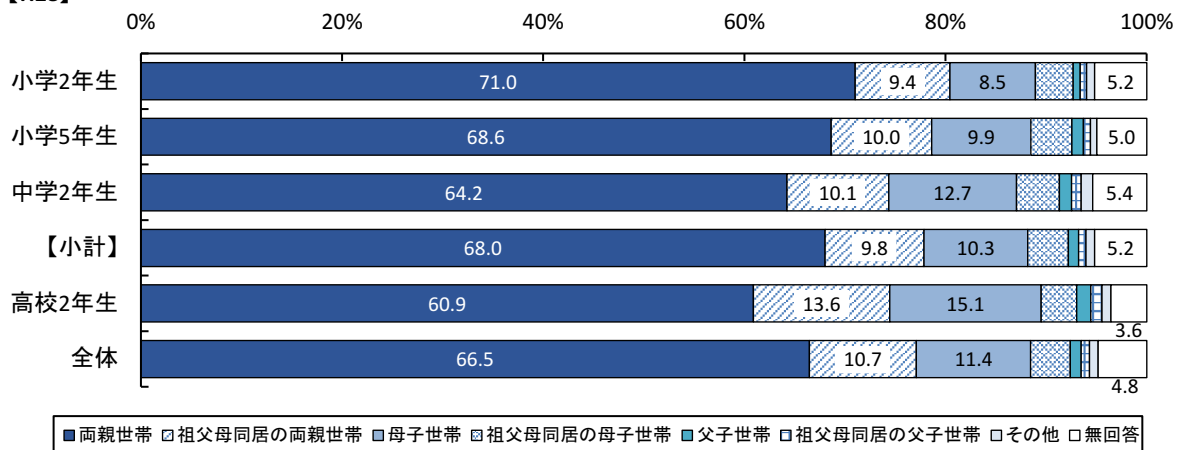
### 1 調査世帯の状況

#### (1) 世帯の状況

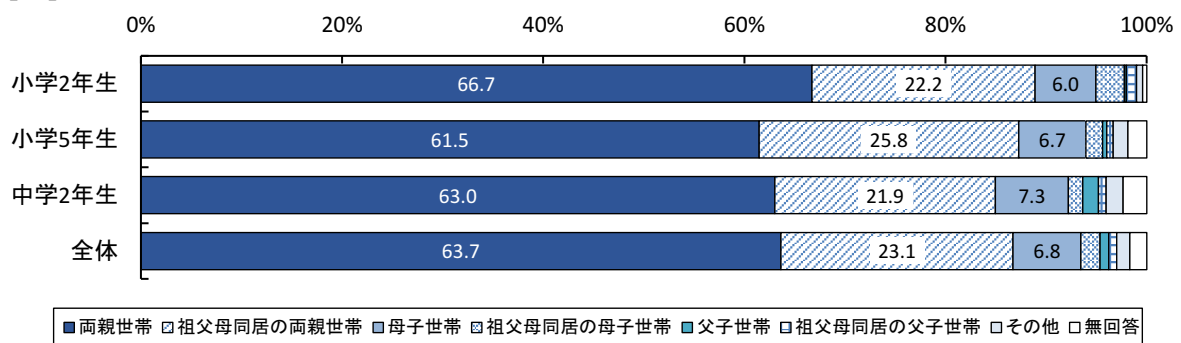
##### ① 家族形態

- 平成5年の調査（小学2年、小学5年、中学2年）との比較では、「祖父母同居の両親世帯」は13.3ポイント減少しており、核家族化の傾向が見られる。また、「母子世帯」は3.5ポイント増加している。

##### 【H28】

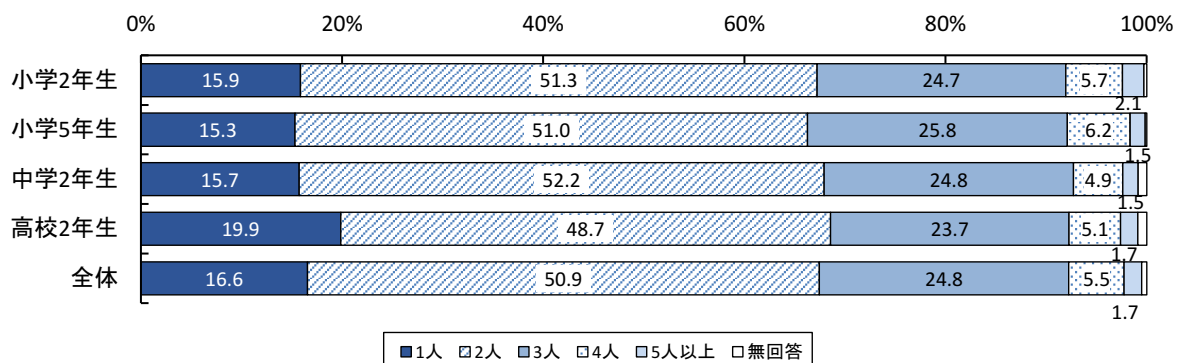


##### 【H5】



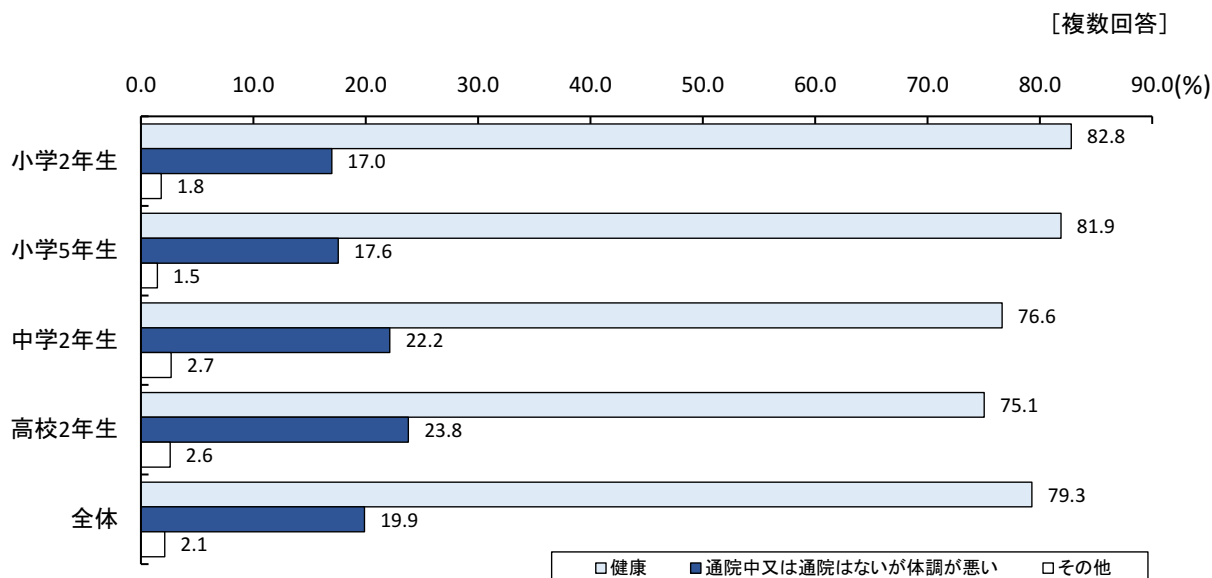
##### ② 生計が同じ家族のうち子どもの人数

- 「2人」が最も多く50.9%、次いで「3人」が24.8%、「1人」が16.6%となっている。



### ③ 親の健康状態

- 全体では、「健康」は79.3%、「通院中」又は「通院はないが体調が悪い」は19.9%。



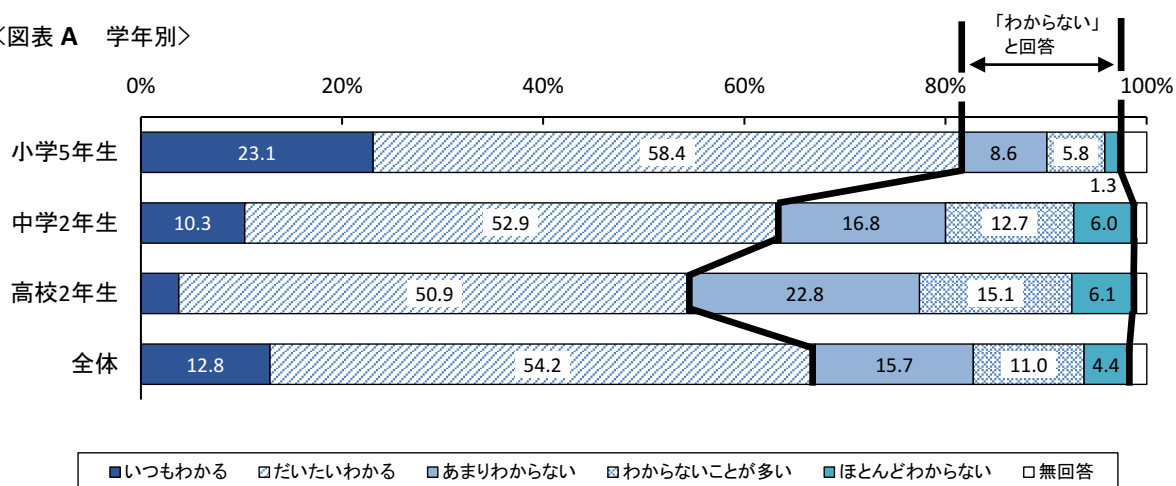
## 2 子どもの教育

### (1) 学校での教育について

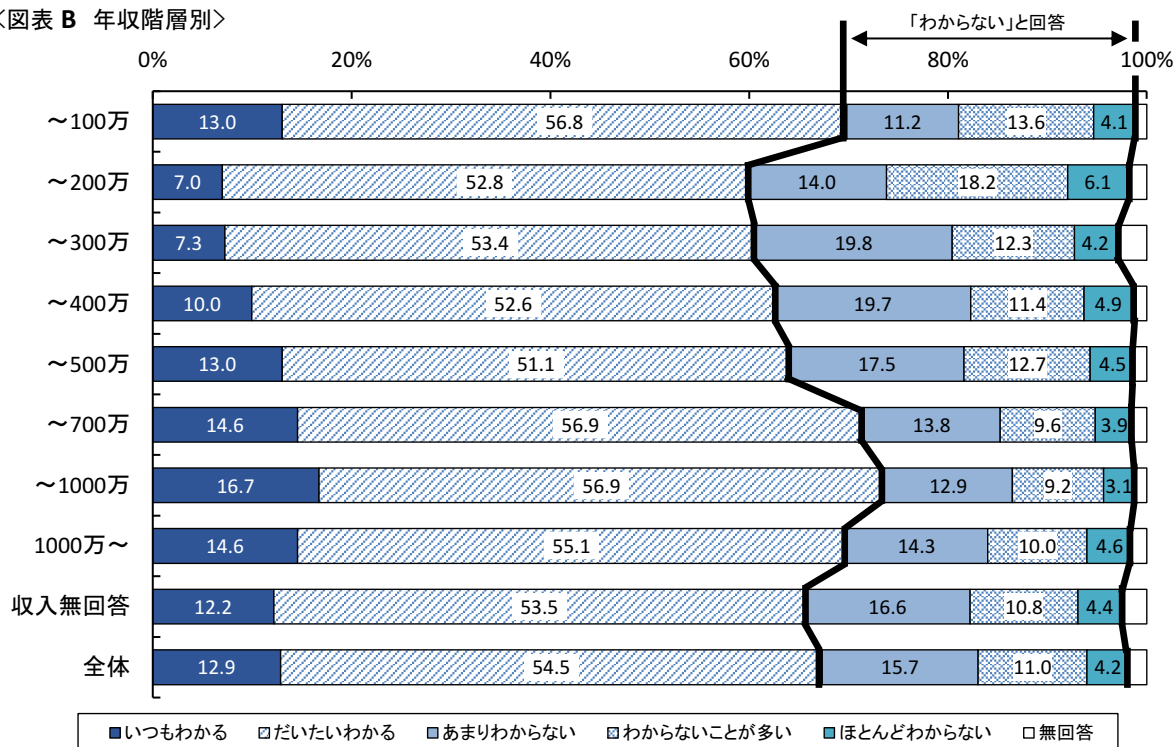
#### ① 学校の授業でわからないことがあるか

- 「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」とする回答は、31.1%となっているが、学年が上がるにつれてその割合は高くなっている。
- 年取階層別でみると、年取が下がるのに伴い、「わからない」とする割合は増加傾向。

<図表 A 学年別>



〈図表 B 年収階層別〉

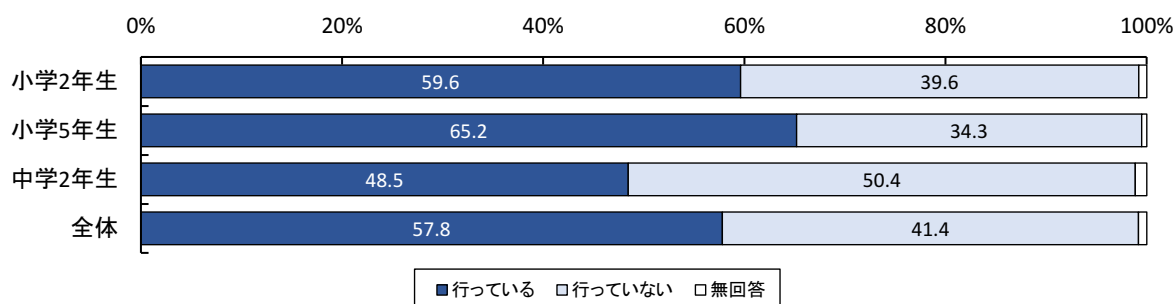


## (2) 家庭での教育について

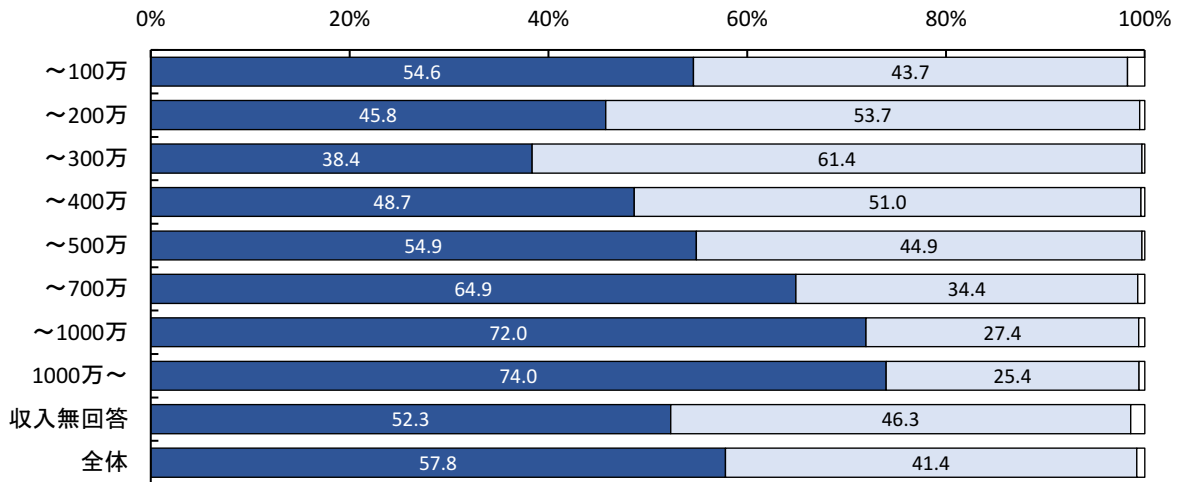
### ① 塾や習い事に行っているか

- 年収階層別では、500万円未満の階層で「行っていない」と回答した割合が全体を上回る。
- 「行っていない」は、両親世帯の37.7%に対し、母子世帯は58.4%、父子世帯は74.6%となっており、ひとり親家庭が高い比率。

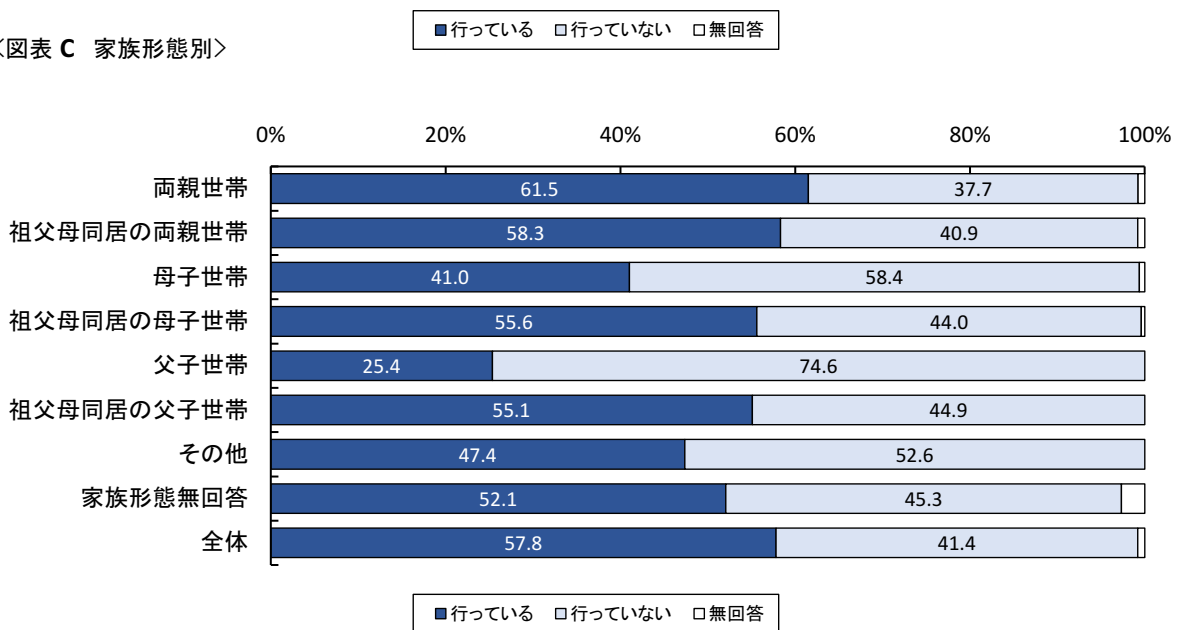
〈図表 A 学年別〉



〈図表 B 年収階層別〉



〈図表 C 家族形態別〉



### (3) 大学進学等について

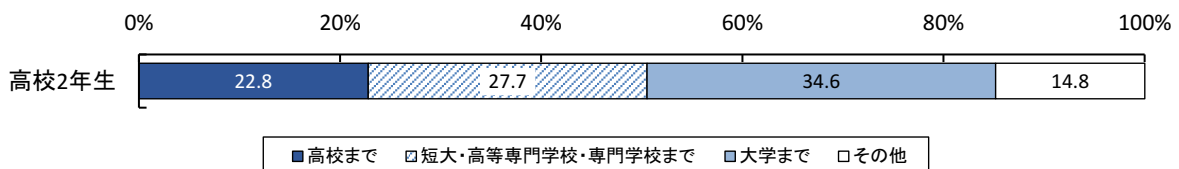
① あなたは将来、どの段階まで進学したいか（高校2年生の回答）

- 高校2年生では「大学まで」が最多の34.6%、「高校まで」とする割合は22.8%。
- 全体と比較し、年収が低い階層は「高校まで」とする割合が高く、さらに「大学まで」よりも、「短大・高等専門学校・専門学校まで」を望んでいる傾向がみられる。

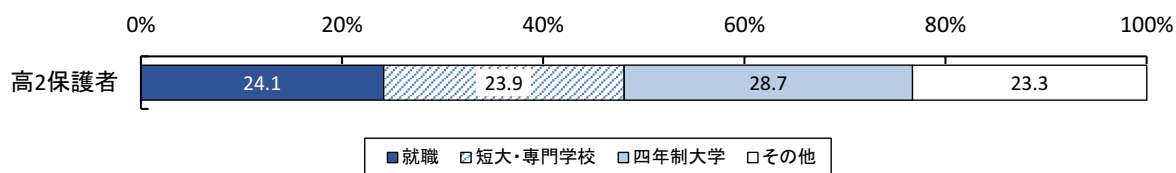
② 高校卒業後の進路についてどう考えるか（高校2年生の保護者の回答）

- 全体で28.7%が「四年制大学」、24.1%が「就職」と回答。
- 年収500万円未満の階層で「就職」の割合が高く、「四年制大学」の割合が低い傾向。

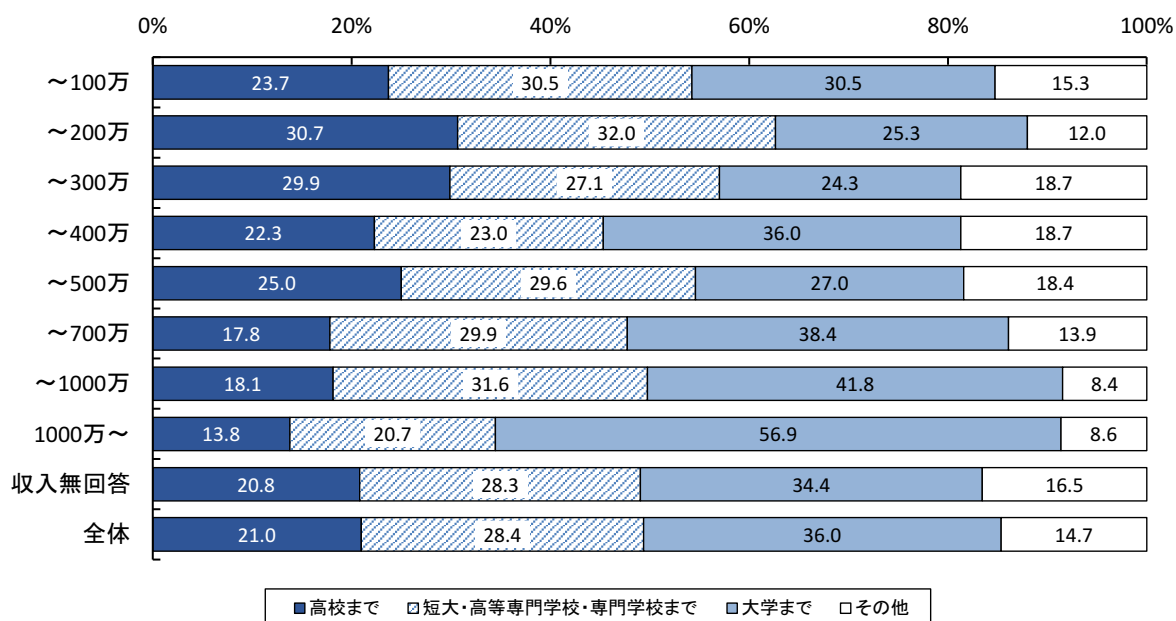
〈図表 A 高2子どもの回答〉



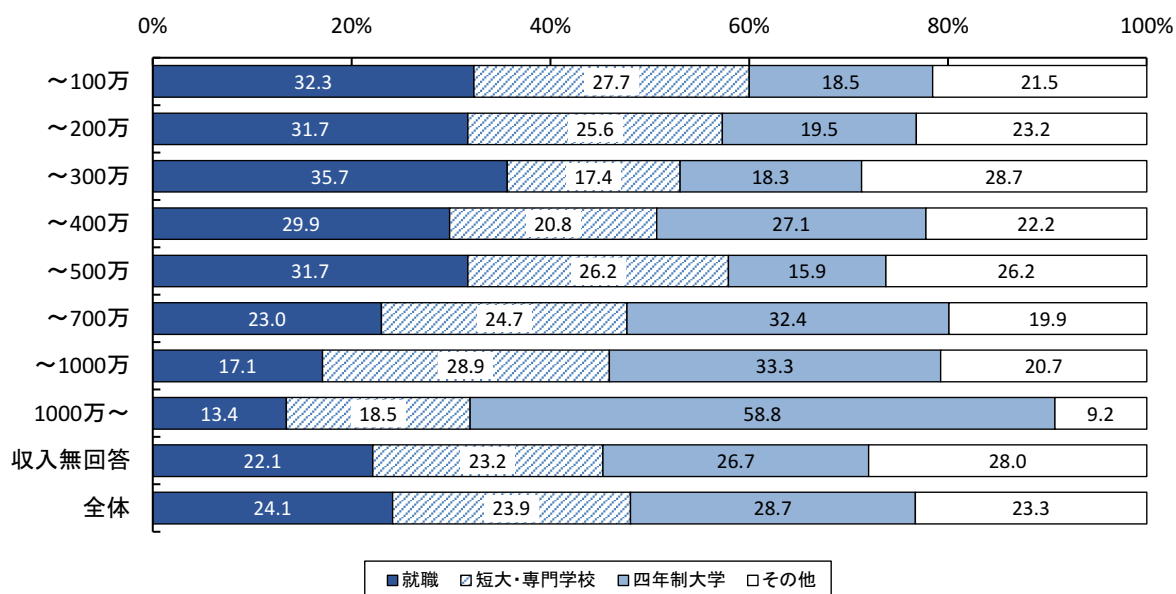
〈図表 B 高2保護者の回答〉



〈図表 C 年収階層別(高2子どもの回答)〉



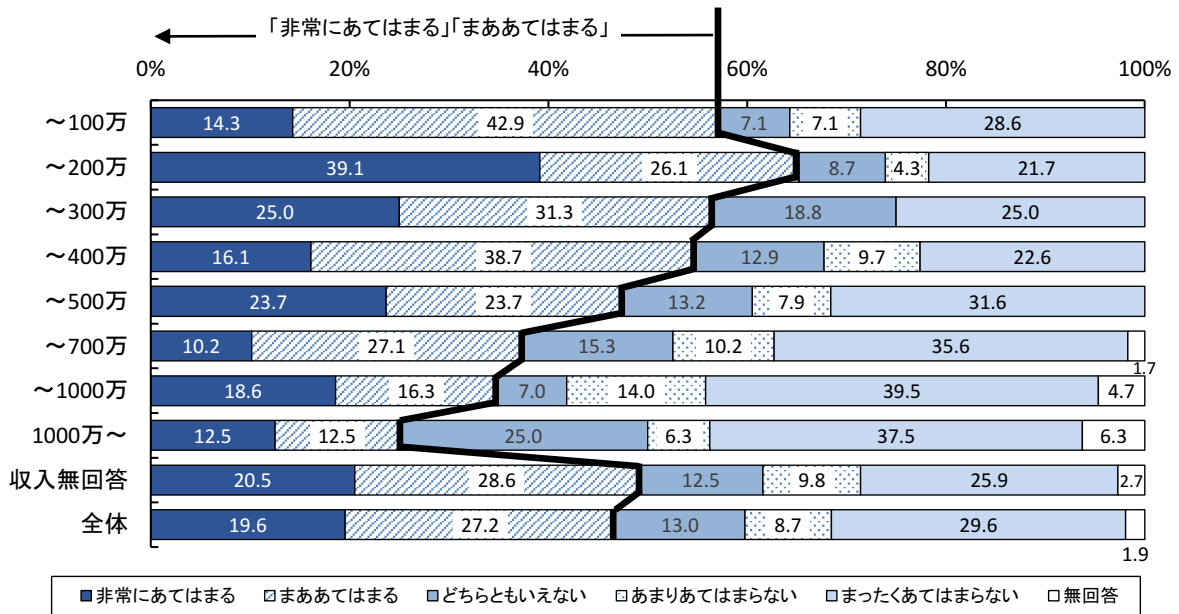
〈図表 D 年収階層別(高2保護者の回答)〉



③ 高校までと答えた方はその理由(子ども回答)

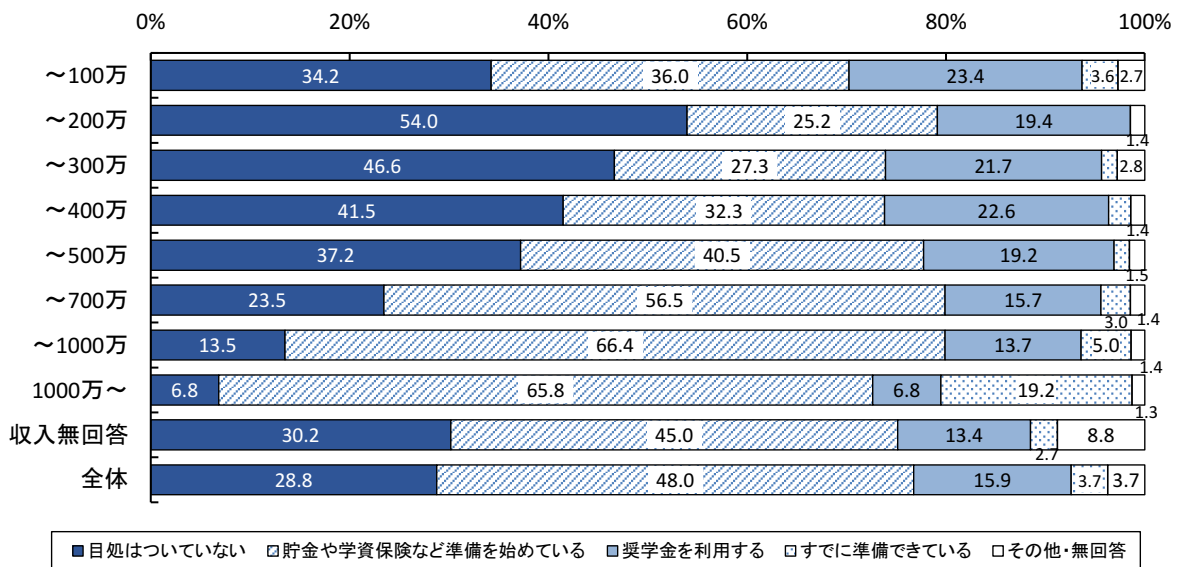
- 進学に必要なお金のことが心配だから」という設問に「まああてはまる」「非常にあてはまる」と回答した割合は、全体で半数近い。
- この割合は、400万円未満の階層で5割を超え、年収が低い階層ほど、進学に必要なお金や家族の生活なども進路の選択の要素になっていると考えられる。

【「進学に必要なお金のことが心配だから」と回答】



④ 教育を受けさせるためのお金の準備状況（小学5年生・中学2年生の保護者の回答）

- 「貯金や学資保険など準備を進めている」が48.0%、「目処はついていない」が28.8%。
- 年収の高い階層ほど「貯金や学資保険など準備を進めている」の割合が高く、年収が低い階層では、この割合が低くなるとともに、「目処はついていない」とする割合が高くなる傾向。



### 3 生活状況

#### (1) 保護者（世帯）への生活支援について

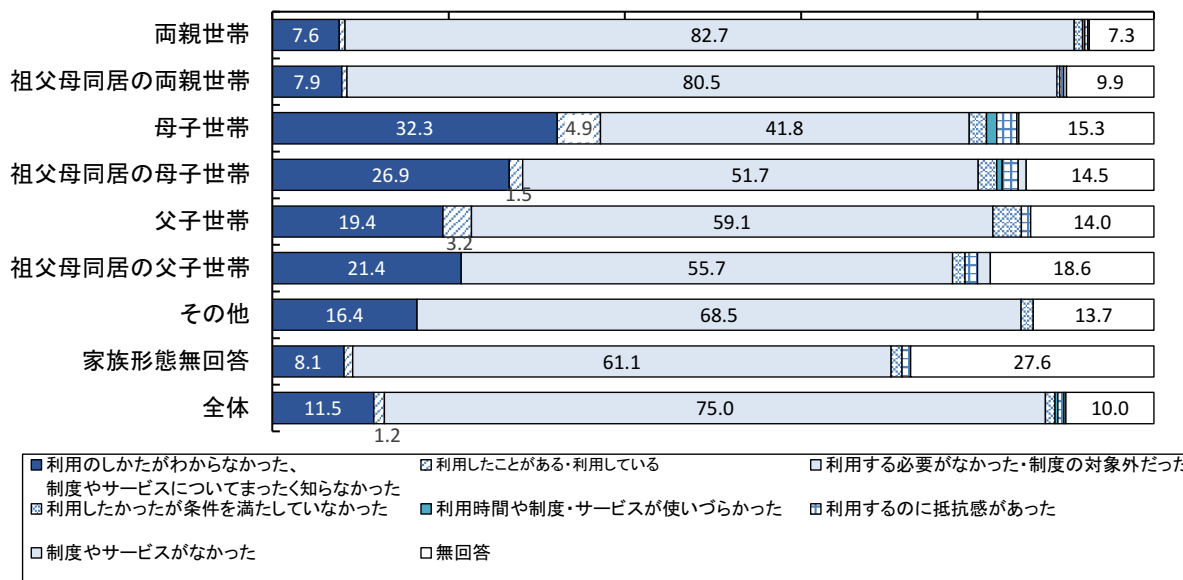
① 各種制度を利用した経験

- 「生活福祉資金」及び「母子父子寡婦福祉資金」では、「利用のしかたがわからなかった」「制度やサービスについてまったく知らなかった」とする回答は、母子世帯で特に高い。

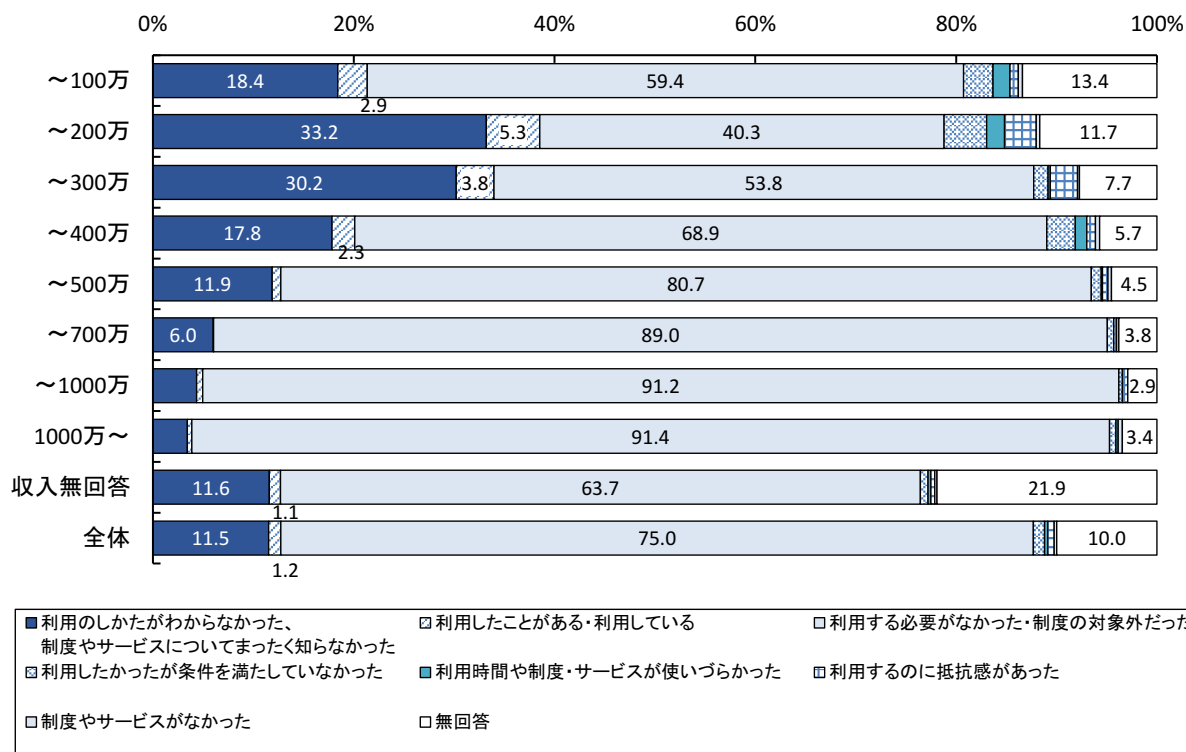
- 年収「100万円以上 300万円未満」の階層では、「利用のしかたがわからなかった」「制度やサービスについてまったく知らなかった」は3割～4割となっている。

【生活福祉資金】

〈図表 A 家族形態別〉 0% 20% 40% 60% 80% 100%



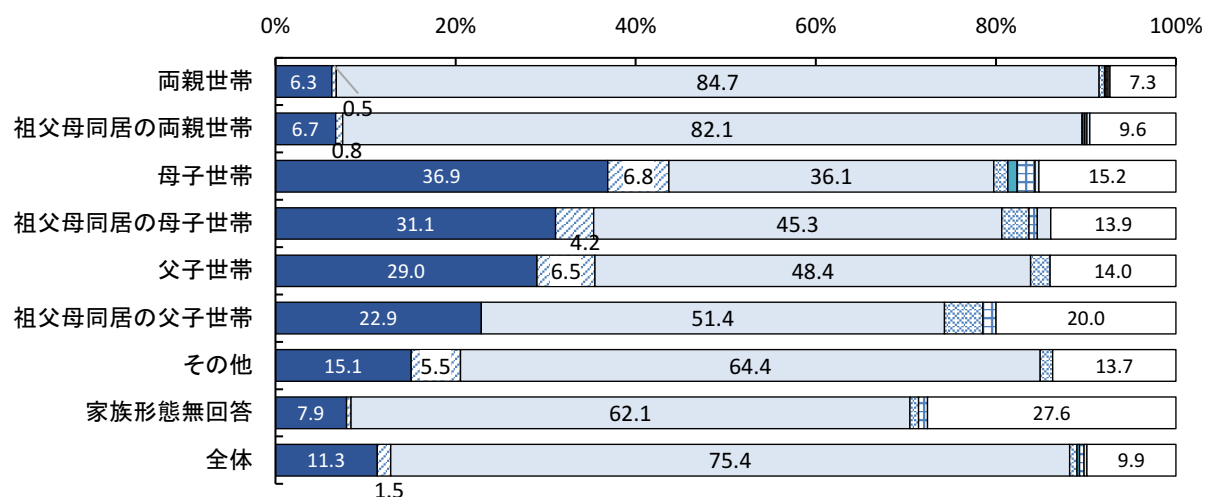
〈図表 B 年収階層別〉





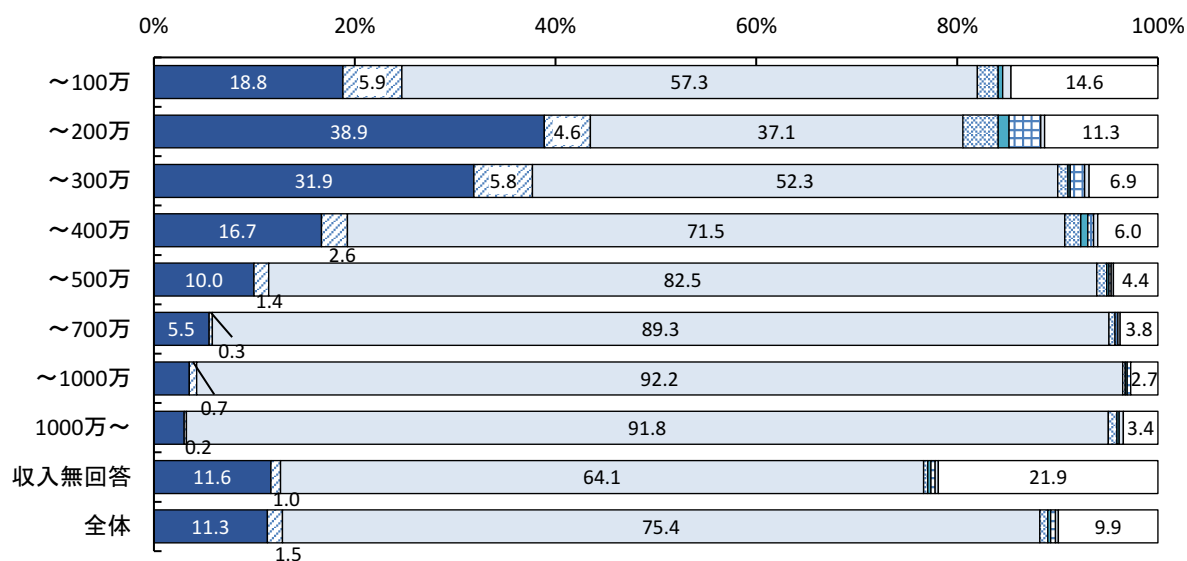
【母子父子寡婦福祉資金】

〈図表 C 家族形態別〉



利用のしかたがわからなかった、制度やサービスについてまったく知らなかった  
 利用したかったが条件を満たしていなかった  
 制度やサービスがなかった  
 利用したことがある・利用している  
 利用時間や制度・サービスが使いづらかった  
 無回答  
 利用する必要があるが利用していない  
 利用するのに抵抗感があった

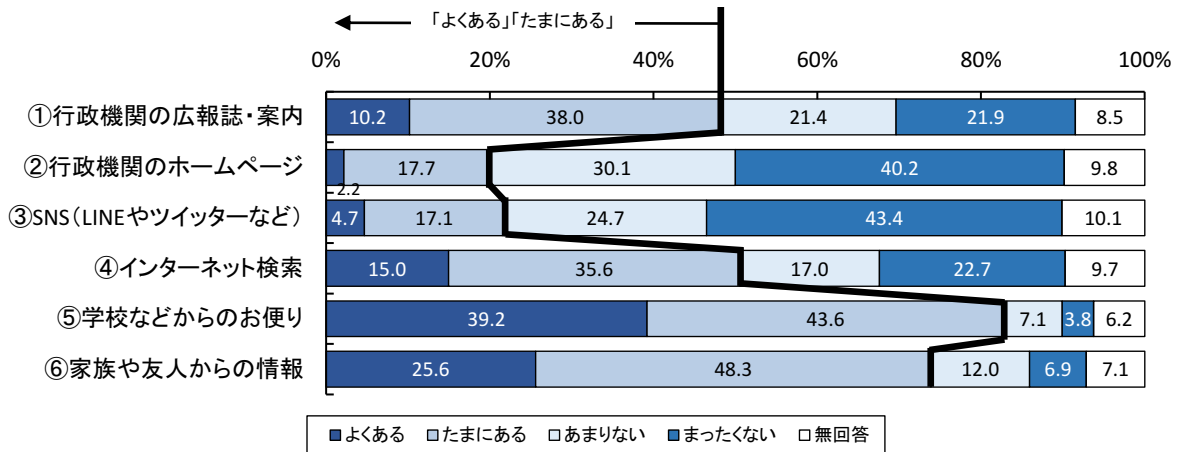
〈図表 D 年収階層別〉



利用のしかたがわからなかった、制度やサービスについてまったく知らなかった  
 利用したかったが条件を満たしていなかった  
 制度やサービスがなかった  
 利用したことがある・利用している  
 利用時間や制度・サービスが使いづらかった  
 無回答  
 利用する必要があるが利用していない  
 利用するのに抵抗感があった

② 子どもに関する施策の情報を得るための手段

- 保護者が子どもに関する施策の情報を得るための手段としては、学校からのお便りや家族や友人からの情報と回答する割合が比較的高い一方で、行政機関の広報誌やホームページについては、半数以下にとどまっている。

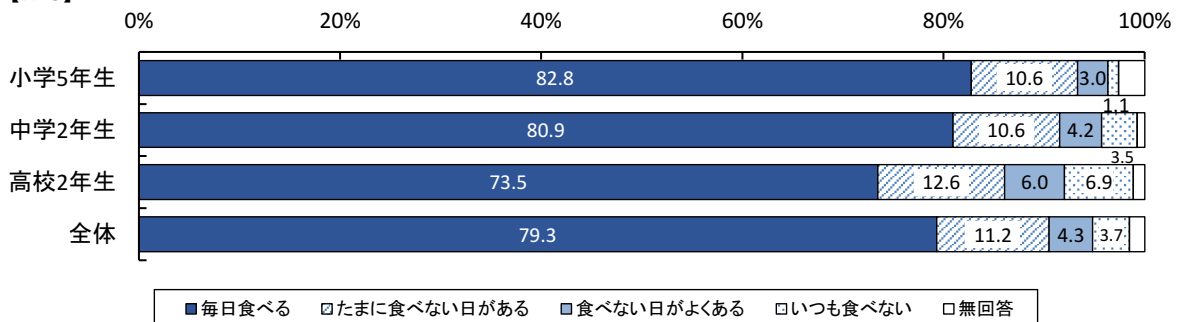


## (2) 子どもの生活状況について

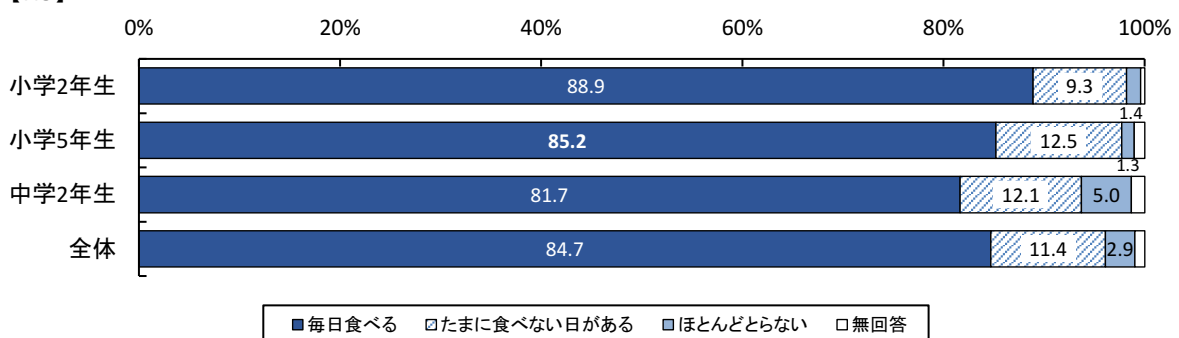
### ① 平日は毎日朝ご飯を食べるか

- 「いつも食べない」「食べない日がよくある」「たまに食べない日がある」は合わせて19.2%であり、学年が上がるにつれてその割合は高くなっている。
- 平成5年の調査結果では、「たまに食べない日がある」「ほとんどとらない」は合わせて14.3%となっており、朝ご飯を食べない子どもは増加している。

【H28】



【H5】

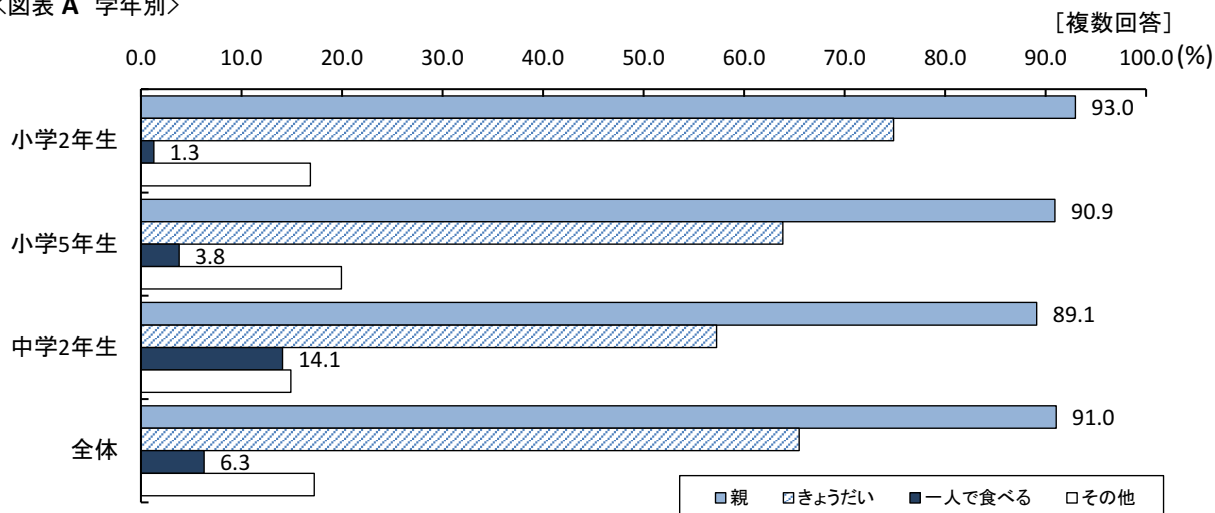


### ② 平日に夕食を誰ととるか

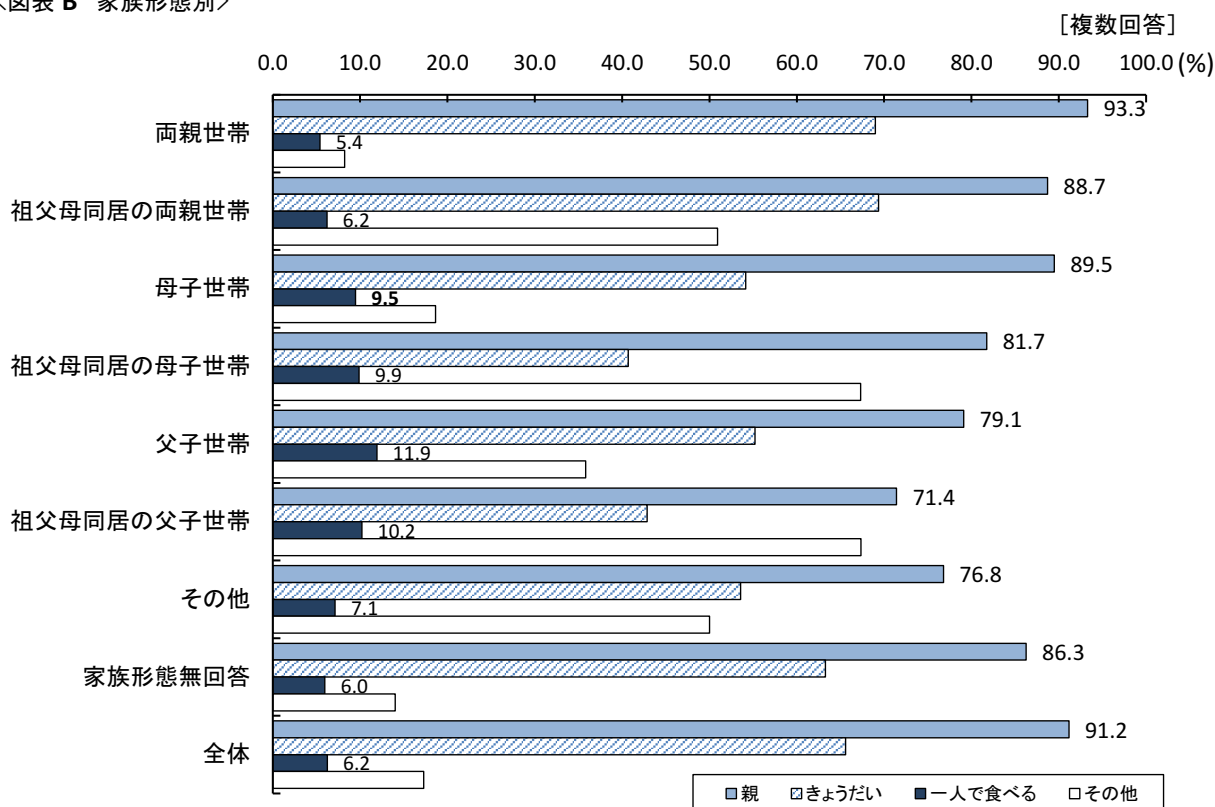
- 全体では「親」は91%、「一人で食べる」は6%。
- 高学年になるほど「一人で食べる」とする割合が高い。
- 「一人で食べる」とする割合が祖父母と同居を含めたひとり親世帯で高い傾向にあり、母子世帯で9.5%、祖父母と同居の母子世帯で9.9%、父子世帯で11.9%、祖父母と同居の父子

世帯で 10.2%となっている。

<図表 A 学年別>



<図表 B 家族形態別>

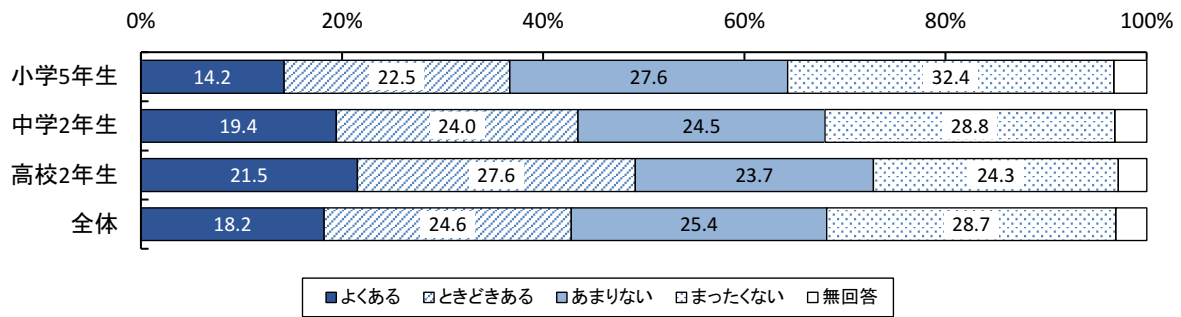


③ 平日の放課後は誰と過ごすことが多いか

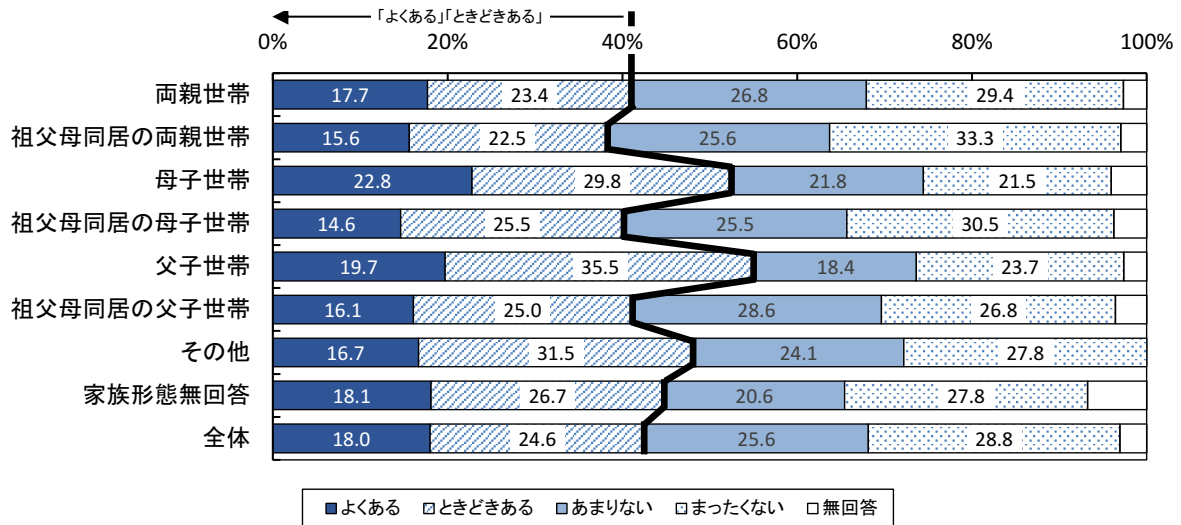
- 家族や友達などと過ごすことがあると回答した子どもがいる一方で、「一人である」ことが「よくある」と回答した子どもは、小学5年生で 14.2%、中学2年生で 19.4%、高校2年生で 21.5%。
- 家族形態別に、「一人である」について「よくある」「ときどきある」とした回答をみると、ひとり親家庭の子どもの割合が高く、両親世帯の 41.1%に対し、母子世帯で 52.6%、父子世帯で 55.2%。

【「一人でいる」の頻度】

〈図表 A 学年別〉

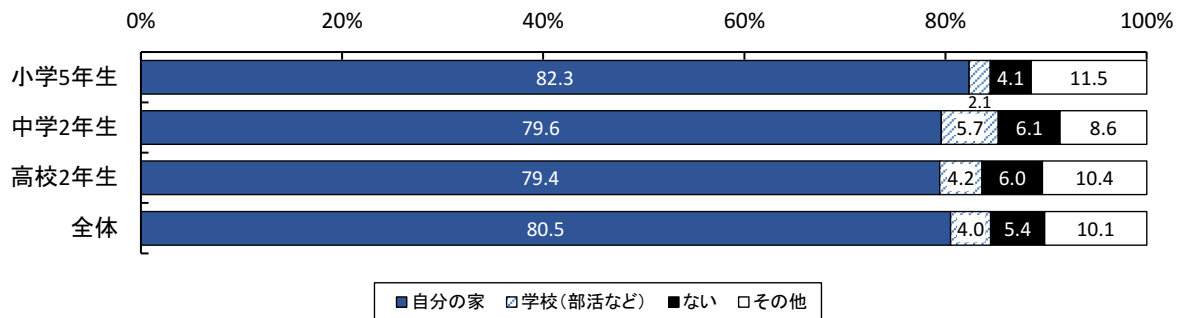


〈図表 B 家族形態別〉



④ 一番ほっとできる場所はどこか

- 一番ほっとできる場所は、「自分の家」が80.5%と最も高く、次いで「学校（部活など）」が4.0%となっているが、「ない」とする回答も5.4%ある。



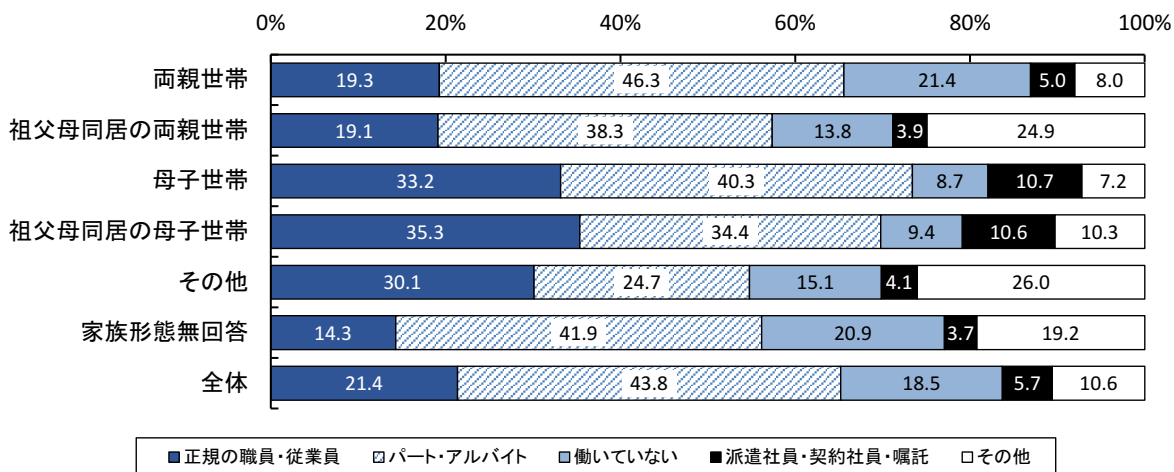
4 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況について

① 母親の働き方

- 全体では「正規の職員・従業員」が21.4%、「パート・アルバイト」が43.8%、「働いていない」が18.5%。

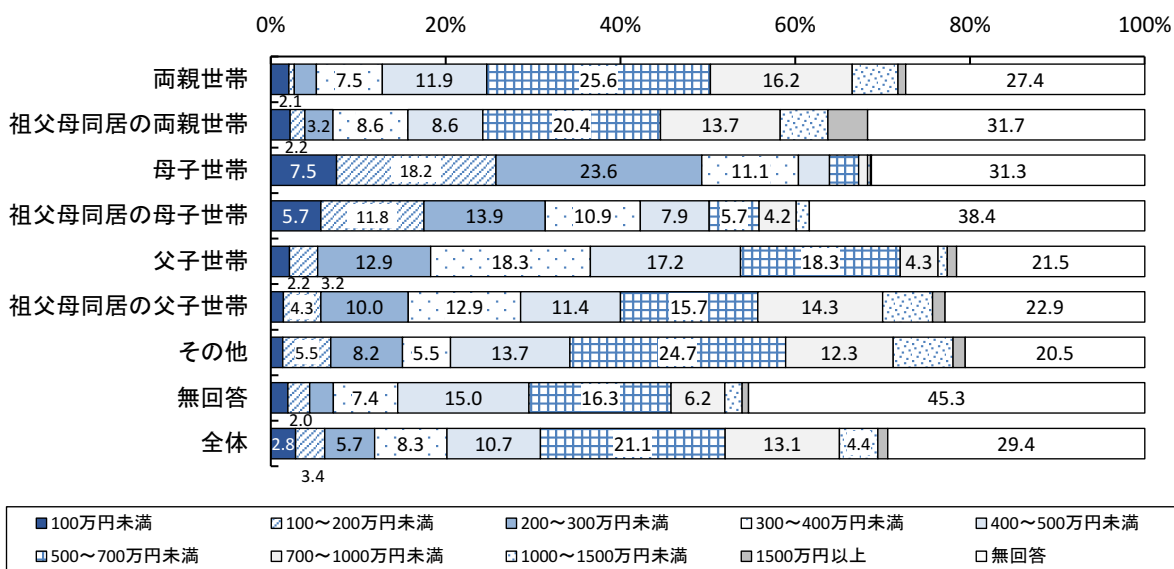
- 両親世帯では「正規の職員・従業員」が19.3%、「パート・アルバイト」が46.3%、「働いていない」が21.4%。
- 母子世帯では「正規の職員・従業員」が33.2%、「パート・アルバイト」が40.3%、「働いていない」が8.7%。



## (2) 家族の年収について

### ① 家族の年収

- 両親世帯は「500万円以上700万円未満」が25.6%と最も高く、次いで「400万円以上500万円未満」が多い。
- 母子世帯では、「200万円以上300万円未満」が23.6%と最も高く、「100万円以上200万円未満」18.2%と続いており、年収無回答を除くと、「100万円未満」が10.9%、「100万円以上200万円未満」が26.6%、「200万円以上300万円未満」が34.3%となり、これらを合わせると、母子世帯の約7割が年収300万円未満。



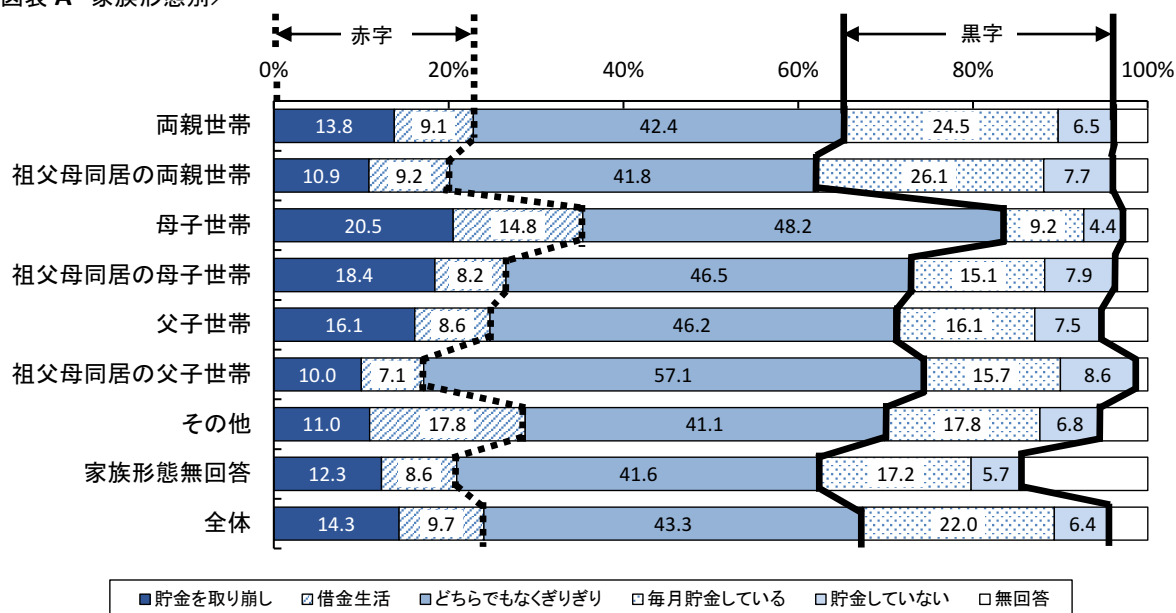
## 5 経済状況

### (1) 家計の状況について

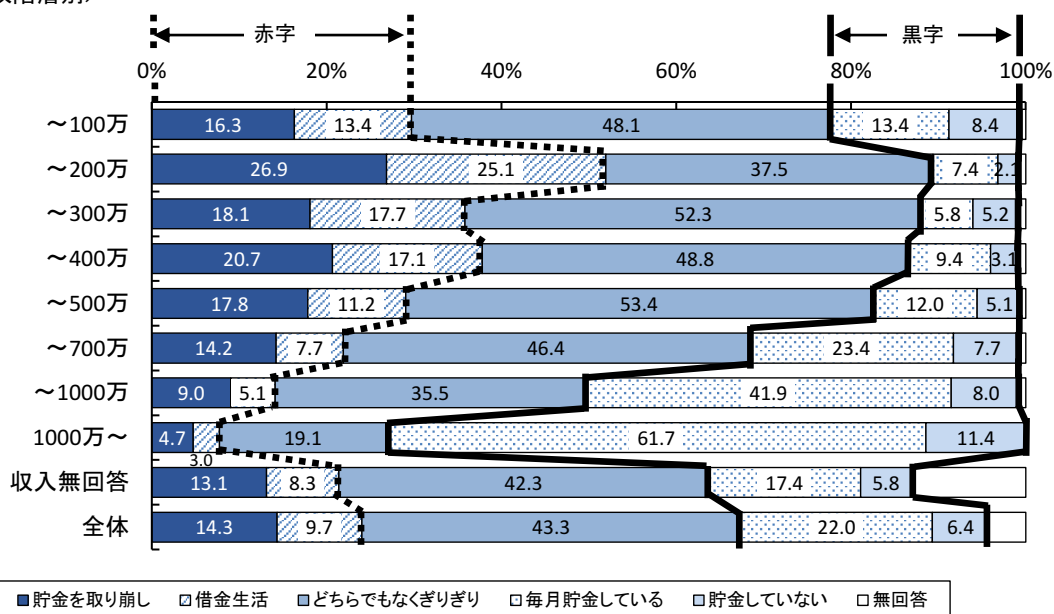
#### ① 普段の家計について、最も近いもの（保護者の回答）

- 全体では「赤字」が24.1%、「どちらでもなくぎりぎり」が43.3%。
- 両親世帯は「赤字」が22.9%、「どちらでもなくぎりぎり」が42.4%であるのに対し、母子世帯では「赤字」が35.3%、「どちらでもなくぎりぎり」が48.2%。
- 年収階層別では、500万円未満で「どちらでもなくぎりぎり」と回答している割合が一定程度いるものの、それ以外は「赤字」の割合が高く、「貯金の取り崩し」や「借金」をしているとする割合も高い。

<図表 A 家族形態別>

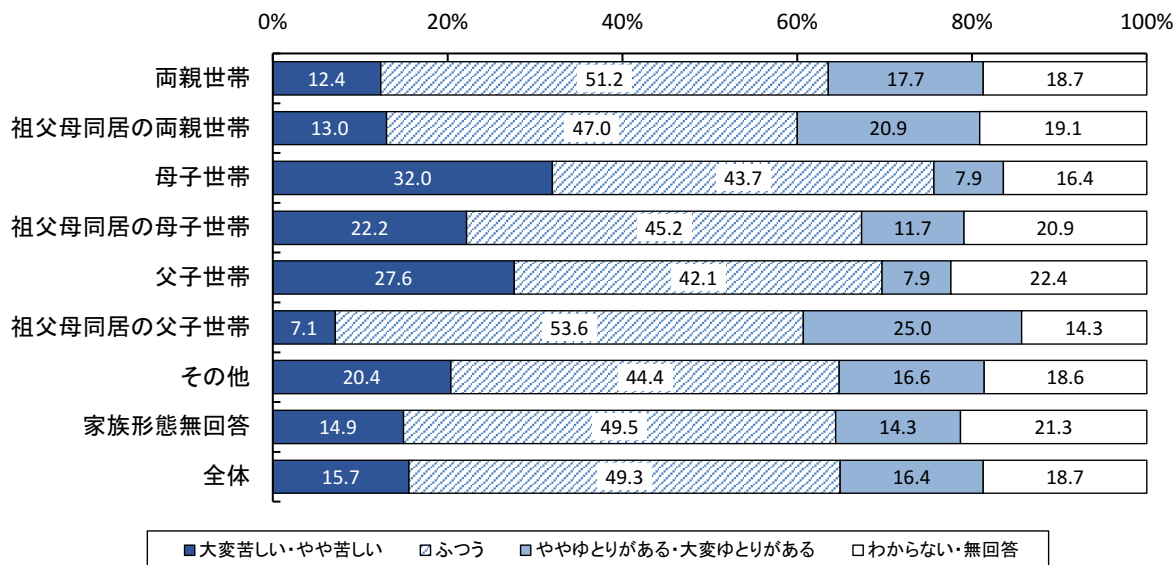


<図表 B 年収階層別>



② 子どもが考える家の暮らし向き（小学5年生、中学2年生、高校2年生の回答）

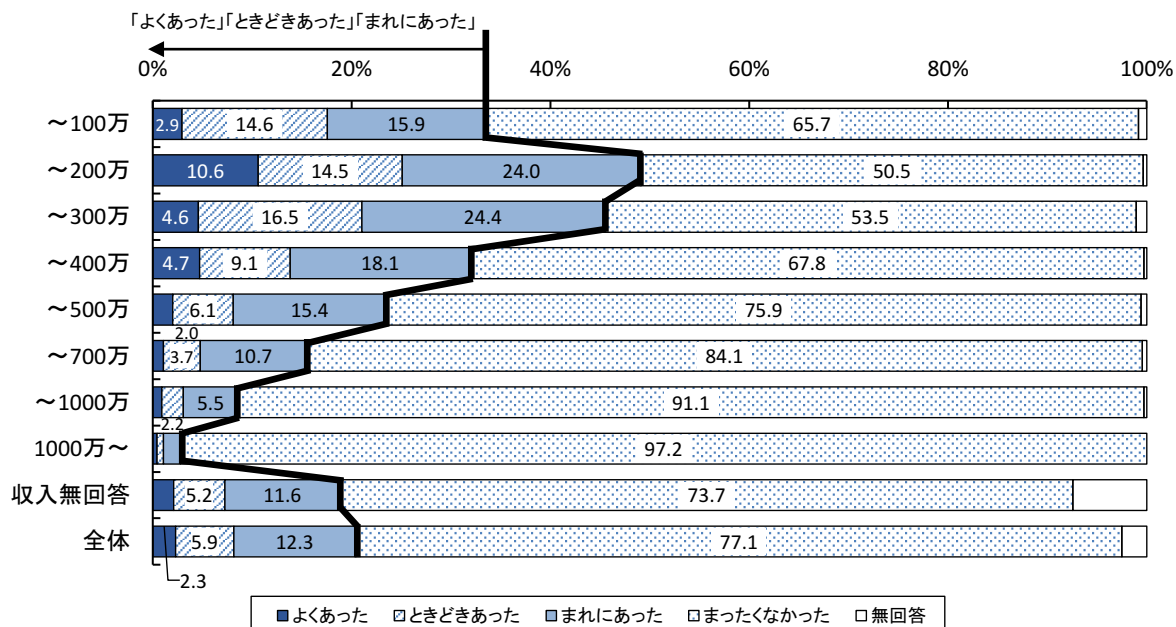
- 全体では「大変苦しい」「やや苦しい」が15.7%、「ふつう」が49.3%。
- 母子世帯と父子世帯で「苦しい」と回答する子どもの割合が高い。



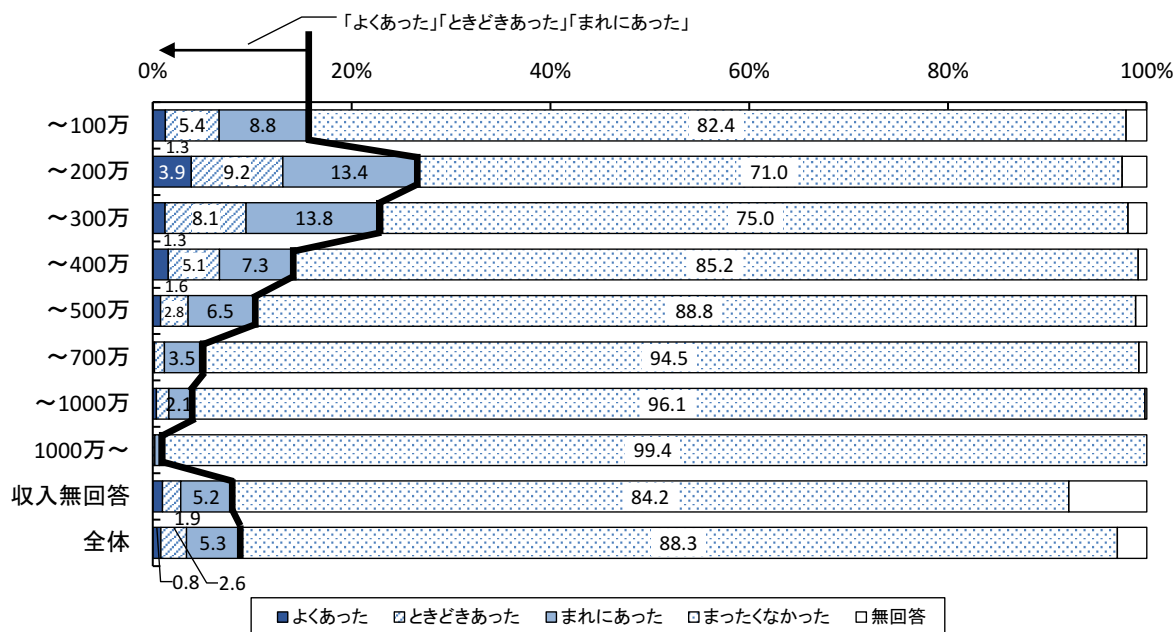
③ 経済的理由で食料を買えなかったり、暖房が使えなかったりした経験

- 「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」とする回答を合わせると、年収300万円未満の階層において、食料が買えなかった経験については約2分の1の世帯が、暖房が使えなかった経験については約4分の1の世帯が「あった」としている。

〈図表 A 「家族が必要とする食料を買えなかった」〉



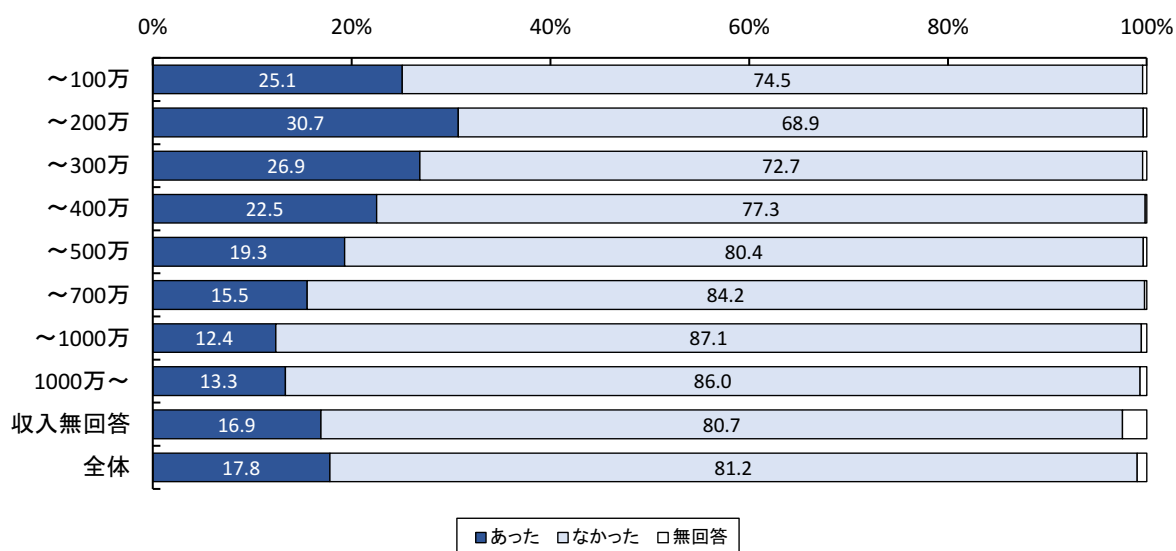
〈図表 B 「冬に暖房が使えなかった」〉



## (2) 医療機関への受診について

### ① 病院等を受診した方が良かったと思っただが受診させなかった経験(過去1年間)

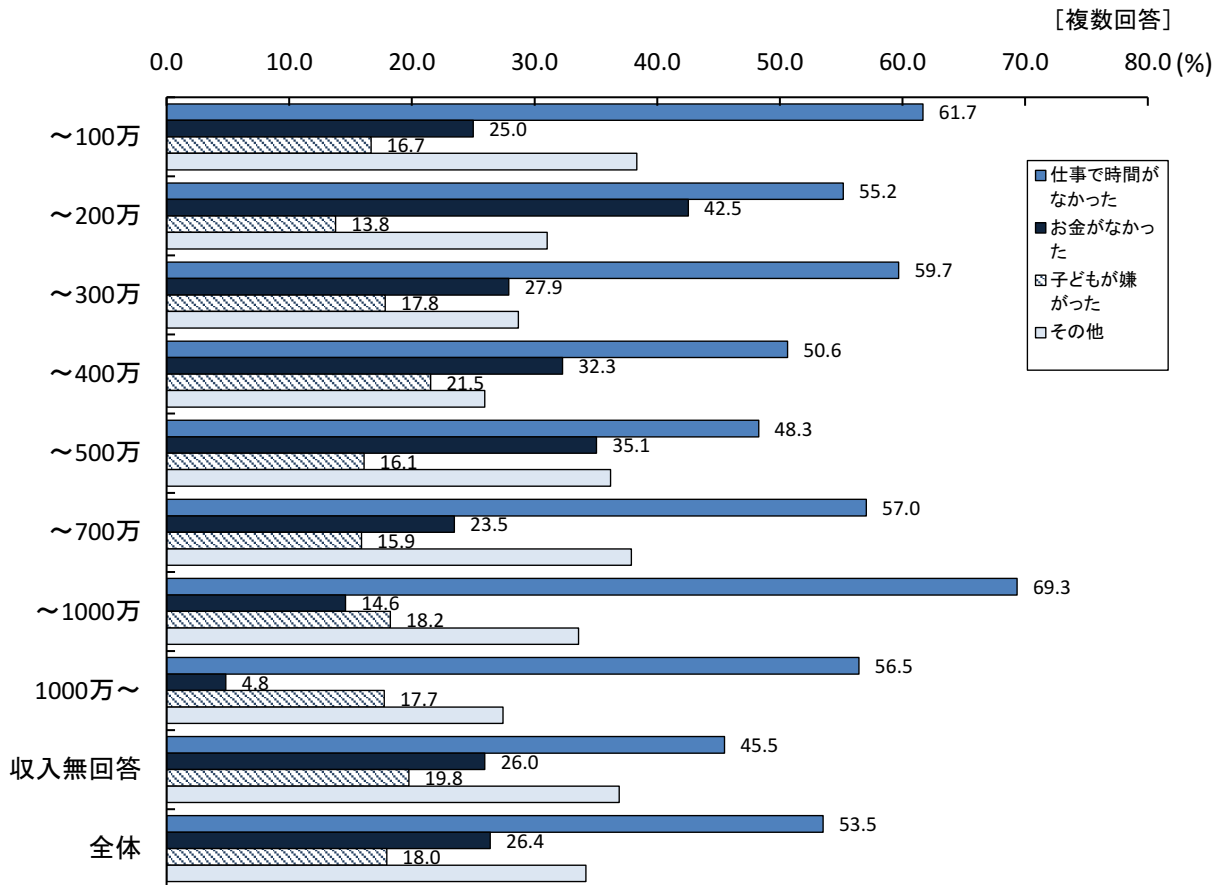
- 全体では「あった」が17.8%。
- 年収が下がるほど「あった」の割合が高い傾向。



### ② 子どもを受診させなかった理由

- 「仕事で時間がなかった」が53.5%、「お金がなかった」が26.4%、「子どもが嫌がった」が18.0%。
- 「仕事で時間がなかった」とする割合は年収による差異はないが、「お金がなかった」とする割合は年収が低い階層ほど高い。

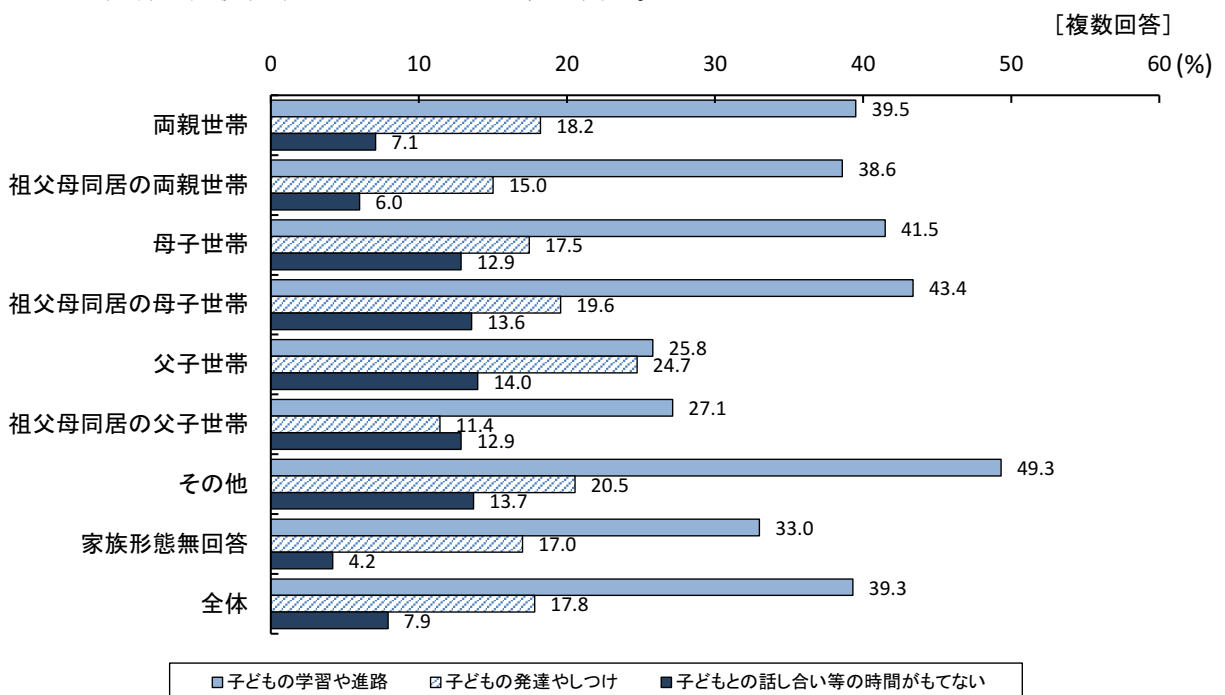




## 6 相談の状況

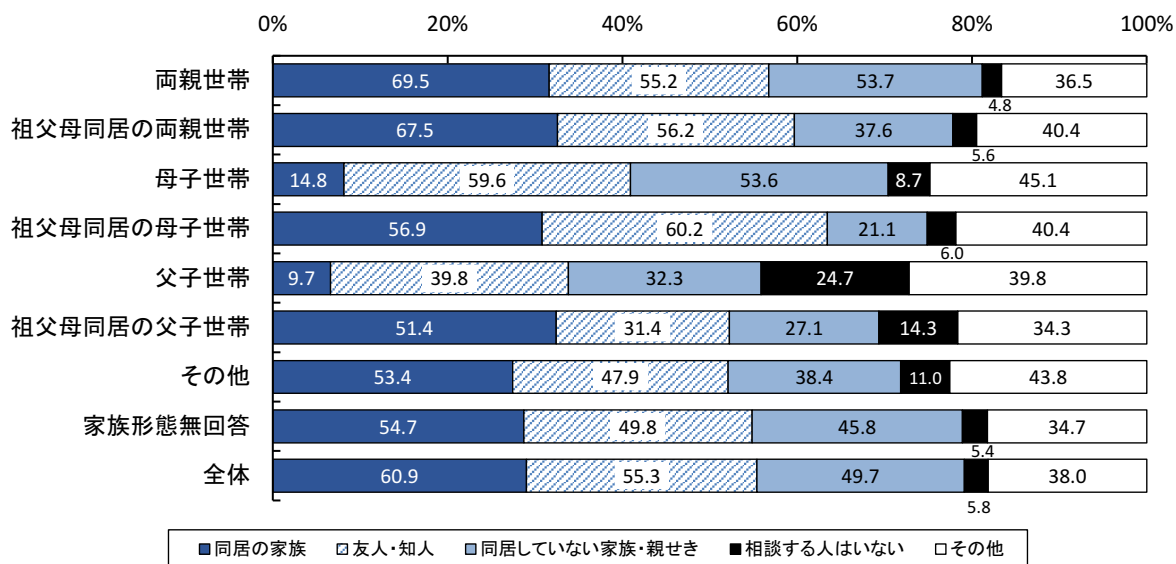
### ① 子どもについての悩み

- 全体では「子どもの学習や進路」と回答した方が 39.3%と最も多く、次いで「子どもの発達やしつけ」が 17.8%。
- 祖父母同居を含めたひとり親世帯では、「子どもとの話し合い等の時間がもてない」とする割合が両親世帯に比べ5ポイント以上高い。



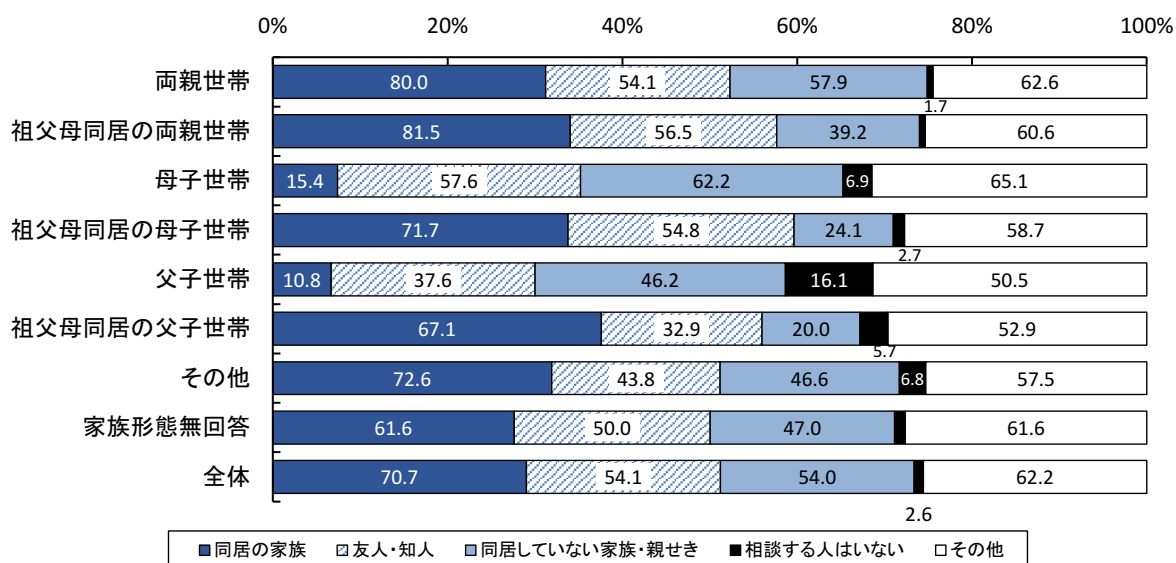
## ② 保護者の悩みごとの相談相手

- 全体では「同居の親族」が60.9%、次いで「友人・知人」が55.3%。
- 両親世帯では「同居の家族」69.5%、「友人・知人」が55.2%、母子世帯では「友人・知人」が59.6%、「同居していない家族・親せき」が53.6%の順となっている。
- 「相談する人はいない」と回答している人は全体の5.8%であるが、父子世帯では24.7%と特に高い比率。



## ③ 子どもについての悩みを相談する相手

- 「同居の親族」70.7%、次いで「友人・知人」54.1%。
- 両親世帯の80.0%が「同居の家族」、次いで57.9%が「同居していない家族・親せき」と回答、母子世帯の62.2%が「同居していない家族・親せき」と回答。
- 「相談する人はいない」と回答している人は、両親世帯では1.7%であるが、母子世帯では6.9%、父子世帯では16.1%あり、ひとり親世帯の割合が高い。

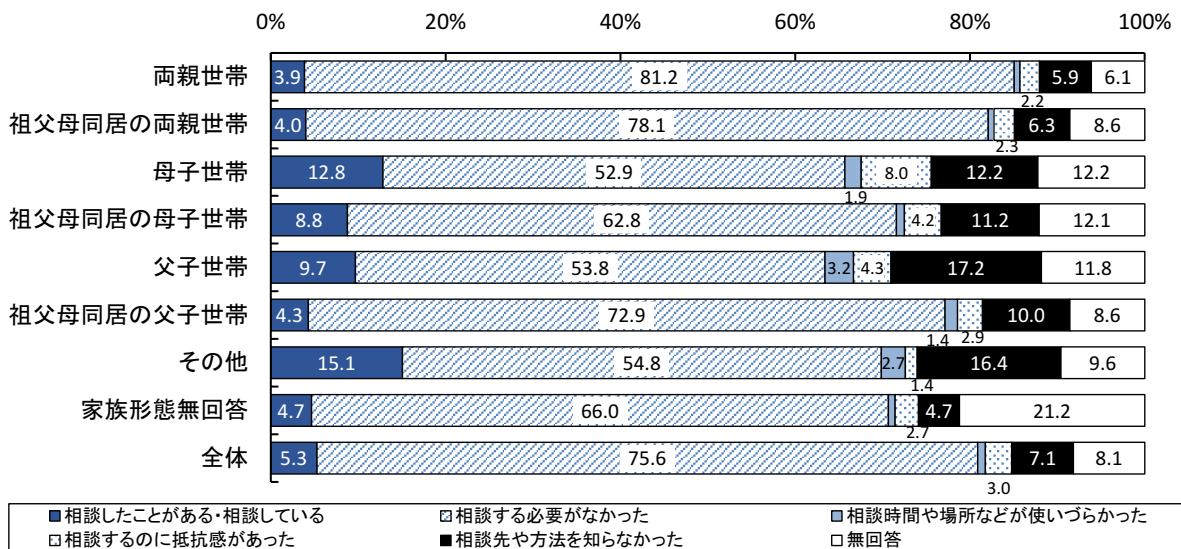


## ④ 相談機関や相談員に子育てや生活のことを相談した経験

- 「相談先や方法を知らなかった」と回答した割合は、福祉事務所が7.1%、児童相談所が5.6%。

- 特に母子世帯や父子世帯について、「相談先や方法を知らなかった」と回答する割合が高い。

<図表 A 「福祉事務所の相談窓口」>



<図表 B 「児童相談所」>

